



とちぎを  
彩る  
歌麿の華

# 喜多川歌麿 吉原の花

高精細複製画完成披露

かつて栃木に滞在したといわれる浮世絵師、喜多川歌麿は、栃木の豪商の依頼で、肉筆画の大作「深川の雪」・「品川の月」・「吉原の花」(「雪」「月」「花」)を描いたと伝えられています。画面の大きさや制作年代は少しずつ違いますが、いずれも紙本着色の大幅で、遊郭での様子が描かれています。

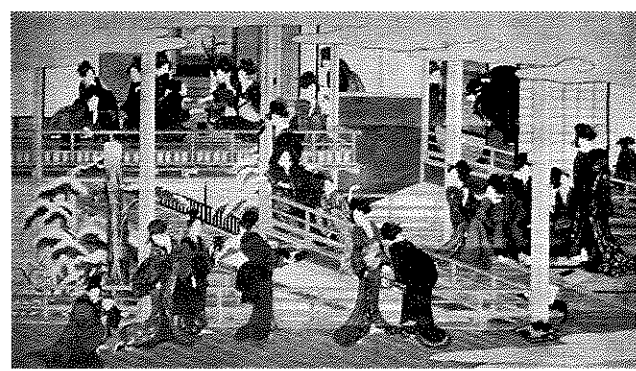
現在「月」と「花」はアメリカの美術館に所蔵され、「雪」は行方が分かっていません。市では、「雪月花」三幅を再び本市に展示したいという思いから、去年は「品川の月」を、そして今回、「吉原の花」の高精細複製画を制作しており、その完成に合わせ、お披露目イベントを開催いたします。

## Guest profile

田辺 昌子 たなべ・まさこ



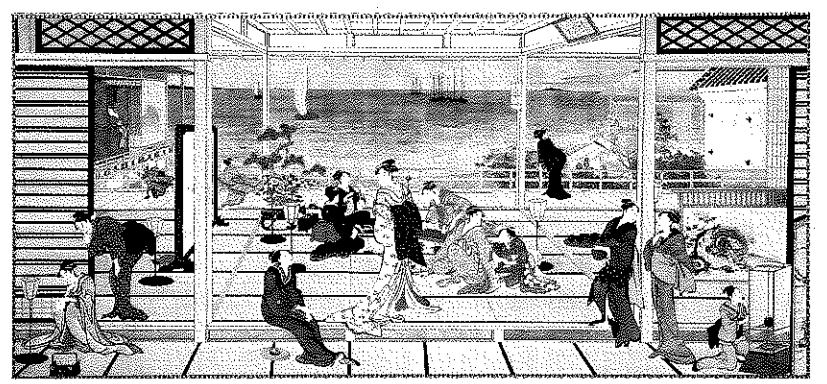
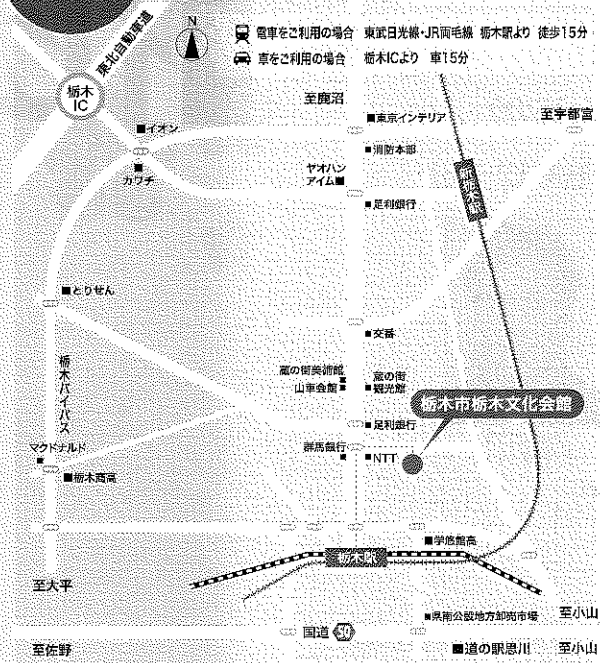
所属：千葉市美術館学芸課長  
 最終学歴：学習院大学人文科学研究科博士前期課程修了  
 専門分野：日本近世美術史(浮世絵)  
 最近の活動：千葉市美術館では主に浮世絵の展覧会を担当。平成19年開催の「鳥居清長—江戸のヴィーナス誕生—」展で国華賞展覧会図録賞(共同受賞)、24年開催の「浮世絵師 溪斎英泉」展は、美術館連絡協議会奨励賞を受賞。また平成22年に板橋区立美術館で開催された「浮世絵の死角」展や平成26年に江戸東京美術館等で開催予定の「大浮世絵展」など他館の浮世絵展にも企画協力している。  
 著書：『浮世絵の歴史』1998年・美術出版(共著)  
 『こんなに楽しい江戸の浮世絵』1999年・東京美術(共著)  
 『浮世絵のことは案内』2005年・小学館  
 『葛飾北斎 百人一首 姥がゑとき』2011年・二玄社  
 監修：『浮世絵—江戸庶民が愛したメディア アートの歴史・名品・技法—』2011年・新星出版社



享和(1801-1804)から文化(1804-1818)年間頃 縦158cm×横346cm(推定)

「深川の雪」(写真)  
 雪の中庭を望む深川の茶屋の二階で、火鉢を囲む女性たち、奥の座敷で芸者遊びをする女性たち、通い夜具と思われる大きな風呂敷包みを背負った女性などが描かれています。

## 交通のご案内



Price: Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, D.C. Gift of Charles Lang Press, F1903.54, 天明8(1788)年頃 縦147.0cm×横318.6cm

「品川の月」高精細複製画(原本：フリーア美術館所蔵)  
 めしうりはたごや  
 品川の食売旅籠屋の中でも最も栄えた相模屋忠兵衛の旅籠屋を描いたものと言われています。海を見下ろす豪壮な屋敷の二階での遊宴の様子が描かれています。  
 現在、とちぎ蔵の街観光館にてこの「品川の月」の原寸大の高精細複製画を公開していますので、是非ご米館のうえ、作品の迫力や美しさをご覧ください。  
 (とちぎ蔵の街観光館 開館時間9:00~18:00)